

第1学年国語科学習指導案

児童 男子 5名 女子 6名 計11名
指導者 千枝 珠美

1 単元名 くらべて よもう
教材名 「じどう車くらべ」

2 単元について

(1) 児童について

児童は、国語の学習に関して興味をもって学習している。初めて出会った説明文の「いろいろな くちばし」では、説明されている事柄の大体を読み取ることが学習し、基本的な「問いかけ」「答え」の文型を学ぶとともに、説明文の読み物を好む児童が増えてきた。音読に関しても家庭学習や朝学習で積極的に取り組むようになってきている。しかしながら、文字に関して、平仮名を一応読んだり、書いたりできるようになってきたが、まだ、不十分な児童もおり、支援しながら進めたい。

本単元で学習する自動車について、興味・関心を調査したところ、男子児童全員が興味をもっているが、女子の6人中5人は、あまり興味を示していないことが分かった。また、自動車について、バス、トラック、消防車、救急車、車といった名称については全児童11人が知っていた。他に、軽トラックについては3人、クレーン車、ショベルカーについては1人の児童が知っていた。それらの「しごと」に関しては、バスは、遠くに行くときに乗る、トラックは、荷物を運ぶ、消防車は、火事の時に働く、救急車は、病気の人を病院に連れて行く、という答えが返ってきたが、それらの「つくり」に関しては、興味をもっている児童でも、全体的な形のみにとどまり、どのような作りになっているかといったことは、分かっていない。つまり、自動車の名称については理解できるが、「しごと」と「つくり」の関係については未知の学習である、という実態が見受けられる。

(2) 単元及び教材について

本単元では、三種類の自動車についてそれぞれ比較させながら、仕事と作りの関係について考えさせ、その内容の大体を読むことができるようにすることが目標である。

本教材では、1年生で初めて学習した「いろいろな くちばし」の学習を踏まえ、この時期の児童の興味・関心の対象として代表的なものの一つであろう自動車を題材として取り上げ、「話題・問題提起」「問題に対する説明」を、「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。同じ形の説明が繰り返されることで、説明文を読む楽しさを味わわせると同時に、調べたり表現したりする学習活動に発展できる教材であると考えられる。

また、本教材は、一文が短く、主語と述語が照応しているため、内容が読み取りやすい文章で構成されており、児童にとって取り組みやすい教材である。

(3) 指導にあたって

本教材では、各自動車について作成したカードを合わせて一冊の手作りの自動車図鑑にするという目的意識と必要感をもってこの文章に取り組むことができるように、単元計画を作成する。また、本教材を進める上で、自動車がどんな「しごと」をしているか、そのためにどんな「つくり」になっているかを問いかけていることに着目させながら、それぞれの自動車の説明が「しごと」についてと「つくり」についてのまとまりから成りたっていることに気づかせたい。また、「そのために」という言葉が果たしている役割を児童に分かる言葉で話したり、児童に気づかせたりするように促したい。

さらに、他の自動車を選び、それぞれ人に聞いたり、資料を読んだりして情報を集め、自動車図鑑を作成させるが、その際、この文章で学んだ形式を生かしながら、書き写したり、書き換えたりして、自分なりの表現をさせたい。そのために、できるだけ多くの資料を用意したうえで、個々の実態に応じて助言をしながら進めたい。また、「しごと」と「つくり」という視点に着目させながらも、児童が資料からそのまま書き写したり、違う形で説明したりすることも認めていきたい。

仮説1「課題を明確にする工夫」に関わって、児童の初発の感想や疑問を生かした課題を設定し、「しごと」と「つくり」に着目して読むことができるように、単元計画を作成し、掲示しておく。仮説2「自分で読み進める工夫」に関わって、「そのために」という言葉に着目させること、サイドラインを引かせることで「しごと」と「つくり」を意識させ、自分で前時を振り返り、前時で学習した自動車と比べながら読み進められるように配慮したい。仮説3「言語能力を高める工夫」に関わって、「しごと」を表現する言語について動作化や視覚を通して理解させたい。また、片仮名を正しく読んで書くことができるように書き順等を常に目に触れるように掲示し、指導していきたい。

3 単元の目標

[目標] ◎ 自動車の仕事と作りの関係に興味をもって読み、他の自動車を説明する文章を書く。

[国語への関心・意欲・態度]

- ・ 自動車図鑑を作るために、仕事と作りの関係に気をつけながら読もうとしている。

[読むこと]

- ・ 三種類の自動車について、仕事と作りの関係を考えながら内容の大体を読むことができる。(読むことイ)
- ・ 語や文としてのまとまりを考えながら声に出して読むことができる。

(読むことエ)

- ・ 乗り物の本などに興味をもち、探して読むことができる。(読むことア)

[書くこと]

- ・ 教材文を参考にして、簡単な組み立てを考えて好きな自動車の仕事と作りを説明する文を書くことができる。(書くことウ)

[言語についての知識・理解・技能]

- ・ 片仮名で書く語を読んだり書いたりすることができる。(言語事項イ (ア))

4 指導計画と評価規準（9時間 本時 3/9）

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語事項
一次	1	○自動車について知っていることを発表する。 ○文章を読み、学習計画を立てる。	自動車について、知っていることを発表しようとしている。(発言)			片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。(カード)
二次	2	○バスと乗用車の「しごと」と「つくり」を確かめる。	バスや乗用車の「しごと」と「つくり」に興味をもって読もうとしている。(観察)		バスと乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取っている。(観察・カード)	
	3 (本 時)	○トラックの「しごと」と「つくり」を確かめる。	トラックの「しごと」と「つくり」に興味をもって読もうとしている。(観察)		トラックの「しごと」と「つくり」を読み取っている。(観察・カード)	
	4	○クレーン車の「しごと」と「つくり」を確かめる。	クレーン車の「しごと」と「つくり」に興味をもって読もうとしている。(観察)		クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取っている。(観察・カード)	
	5	○はしご車の「しごと」と「つくり」の文章を書く。	はしご車の「しごと」と「つくり」に興味をもって読もうとしている。(観察)	はしご車の説明を参考にして「しごと」や「つくり」を文章にまとめている。(カード)		
	三次	6	○自動車の本を探して読む。	自動車の本を探することができる。(観察)		
	7 8	○好きな自動車を選び、「しごと」と「つくり」を読み取り、カードを作る。		教材文を参考にして、好きな自動車の「しごと」や「つくり」を文章にまとめている。(カード)		
	9	○表紙と目次を作り、図鑑を完成させる。		自動車図鑑を完成させることができる。(カード)		

5 本時の指導

(1) 目標 トラックの「しごと」と「つくり」について読み取ることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点 \ 具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手だて
トラックの「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。	トラックの「しごと」と「つくり」について、サイドラインを引き、自動車くらのカードに視写したり、自分の言葉で説明したりする。	トラックの「しごと」と「つくり」について、サイドラインを引き、自動車くらのカードに視写する。	前時の学習を振り返り、挿絵を使いながら1つ1つの文を読ませ、何がどこに書かれているのか読み取らせる。

(3) 展開 (3 / 9)

段階	学習活動	支援・留意点 (・) 評価 (*)
つかむ	<p>1 学習課題の確認</p> <p>①本時の学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> トラックは、どんな しごとを していますか。 そのために、どんな つくりになっ ていますか。 </div> <p>②読みの手がかりの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」「つくり」 ・「そのために」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れ、前時の学習内容が分かるように掲示しておく。 ・どこの文に書かれているのか、前時を振り返ることを通して確認する。 ・「そのために」の言葉の前に「しごと」、後ろに「つくり」について書かれていることを確認させる。
ふかめる	<p>2 学習場面の音読</p> <p>①本時の学習場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リレー読み <p>3 学習課題の解決</p> <p>①トラックの「しごと」や「つくり」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トラックの「しごと」を読み取る。 ・「しごと」について書かれてあるところを探し、サイドラインを引く。 「にもつを はこぶ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、正しく音読させる。 ・本時の学習の範囲を意識させたり、学習への意欲を喚起させたりするためにできるだけ多くの児童に音読をさせる。 ・トラックの形等をイメージしやすいようにおもちゃを用意し、興味を喚起する。 ・前時と比べながら「しごと」と「つくり」が書いてある部分を確認させる。 ・「そのために」に着目をして「しごと」について書いてあるところにサイドラインを

35分	<ul style="list-style-type: none"> カードにトラックの仕事を視写する。 <p>○トラックの「つくり」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つくり」について書かれてあるところを探し、サイドラインを引く。 「ひろい にだいに なって います」 「タイヤが たくさん ついて います」 カードに視写をする。 	<p>引かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 片仮名カードを用意して片仮名の書き順を確認しながら視写をさせる。 句読点に注意させる。 「あいうえお」表を確認しながら文字をていねいに記入させる。 「おもい」「ひろい」「たくさん」の理解のために、実際の広さやタイヤの大きさや数が分かるように用意し、体感できるようにする。 早く終わった児童には、トラックの絵を完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*トラックの「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。 (観察・カード)</p> </div>
5分	<p>4 学習の振り返り</p> <p>①本時の学習の感想を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> トラックの「しごと」「つくり」について分かったことを発表する。 <p>②まとめの音読をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 一斉読み <p>5 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価させ、今日の学習について振り返る。 クレーン車について、トラックと同様に「しごと」と「つくり」について学習することを知らせる。

6 板書計画

トラック

にもつを はこぶ
しごとを して います。

そのために、
うんてんせきの ほかは、
ひろい にだいに なって
おもい にもつを
のせる トラックには、
タイヤが たくさん
ついて います。

トラックの絵

くだい
じどう車くらへ
くらべてよもう

トラックは、どんな しごとを
していますか。
その ために、どんな
つくり
に
なっ
て
い
ま
す
か。